

2025年 第56回京都教育センター研究集会 地方教育行政分科会

「子どもと府民のための教育行政政策を問う」

—「給特法改正」後の京都府での教職員の働き方改革を検討する—

日時: 2025年12月21日(日) 10:00～16:30

場所: 京都教育文化センター会議室地階公益事業室

内容: 10:00 基調報告

中野宏之（京都教職員組合委員長）

今、学校現場では教職員不足が深刻です。それも一時的なことではなく、構造的な問題です。これは教職員の働き方の問題にとどまらず、子どもの教育の問題となっています。1人ひとりの子どもの困りに寄り添い、丁寧に関われなくしています。50数年ぶりに給特法改定も、「定額働かせて放題」と批判されてきた今の仕組みを維持し、教職員増には、踏み込まない小手先の改革にとどまっています。

来年4月には京都府知事選が行われます。国のすすめる施策を唯々諾々とすすめる今の府政では教育はよくなりません。学校と教育の未来を考えましょう！

報告① 「京都府議会での教育問題での論戦について」 浜田良之（日本共産党府会議員団）

①教職員の働き方改革について、「定額働かせ放題」の給特法の抜本改正、教育現場の人手不足は臨時免許や特別免許の活用を主な対策にするのではなく教員を増やすことで解決すべき、再任用職員や会計年度任用職員の処遇改善、府立高校で派遣社員として働く外国語指導助手（ALT）の処遇改善などで論戦。②府立高校の再編計画について、少子化だからと安易に再編・統合するのではなく、学級定員を減らして少人数学級にすべき、具体的な方向性を決める段階で市町村や関係機関の意見を聞くことなどで論戦。③教育条件の改善の課題として、小中学校給食費の無償化へ府の支援を、体育館をはじめ学校施設へのエアコン設置、高校通学費の補助制度の拡充などで論戦。

13:30 報告② 「城陽市学校現場の実態」

松山成明（宇治久世教組書記長）

1. 城陽市の概要（城陽市ホームページより） 2. この間、城陽市は何をしてきたか ～ 身の丈以上の財政運用 ～ 3. そんな中で城陽市の学校施設の現状は ①学校施設の老朽化 … 学校ボロボロ ②体育館、特別教室へのエアコン設置計画 … ストップしたまま ③トイレの洋式化 … 計画途中でストップ ④「施設長寿命化計画」に基づく大規模改修や校舎建替えの目処も立たない 4. 市長選挙を通して要求実現運動を 5. 学校施設の現状を広く訴える 6. 市長選挙後の要求実現運動 7. 緊急財政対策への懸念 8. まとめ

報告③ 「教師の働き方改革と事務職員の仕事」

奥村久美子（行政研事務局）

給特法改定とあわせて、「学校と教師の業務の3分類」指針のアップデートとして、「教師以外が積極的に参画すべき業務」に事務職員等が中心に担うことで軽減を図ると示されています。本当にこのことが、教師の多忙が解消されるのかを共に働く事務職員の立場から考えてみたいと思います。

討論

16:30 終了

連絡先 ●京都教育センター 地方教育行政研究会 ●京都教育センター (075-752-1081)